

表1 学校における問題行動の類型の一例

知能・学業	性格行動A(反社会的)	性格行動B(非社会的)	神経症・心身症
・知能の遅れ、優秀すぎることからくる不適応 ・学業不振等からくる不適応	・社会が迷惑を感じ、非とする行為。一般に非行といわれるもの。	・他人に危害を加えたり迷惑はかけないが、自らの健康や徳性を妨げる行為。	・ノイローゼや心理的色彩の濃い身体的疾患など。
① 精神薄弱 ② 知能発達遅滞 ③ 優秀児(適応を欠く) ④ 学業不振 ⑤ 特定の教科の不振 ⑥ 注意散漫 ⑦ 学習意欲欠如 ⑧ その他	① 窃盗・強盗 ② 恐喝 ③ 殺人・傷害 ④ 放火 ⑤ 性的非行 ⑥ 乱暴・けんか ⑦ 家出・放浪 ⑧ 喫煙・飲酒 ⑨ 怠学 ⑩ その他	① 緘黙・引っこみ思案 ② 孤立 ③ 登校拒否 ④ なげやりな生活態度 ⑤ 家出 ⑥ 自殺 ⑦ 睡眠薬・覚せい剤乱用 ⑧ その他	① 強迫神経症・恐怖症 ② 転換ヒステリー ③ 抑うつ神経症 ④ チック症 ⑤ 夜尿症 ⑥ 起立性調節障害 ⑦ 吃音 ⑧ 爪かみ・指しゃぶり ⑨ 喘息・過呼吸症候群 ⑩ その他

(3) 欲求のしくみ

不適応行動は子供の欲求が阻止され、それによって、不満、不安、劣等感などの不快な感情がうっ積し、適切な処置ができないときに起こる。

このように考えると、問題行動を理解するには、子供の欲求をよく知り、必要な欲求を満たす配慮が大切になってくる。

A・H・マズロー(アメリカの心理学者)は、人間の欲求を、図3のように、5つに分類し、低次の欲求が満たされた上で、順次・高次の欲求が表れるとしている。

特に・児童生徒の場合、集団所属への欲求、承認の欲求が強く、これらの欲求が適度に満たされた後、自己実現への意欲にかられるものである。このような観点から、子供の欲求の内容とその水準を知り、適切な援助・指導を行う必要がある。

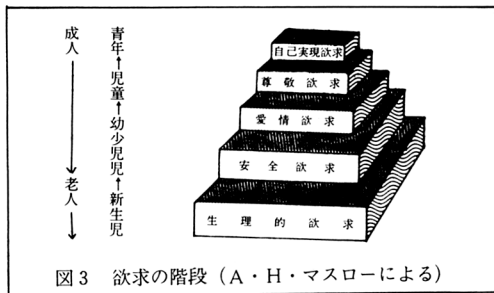


図3 欲求の階段(A・H・マズローによる)

(4) 適応機制

人は、生理的に、つねに自分の身体の状態を安定化し、一定のよりよい状態に保ち続けようとい

う働きがある(ホメオスタシス=恒常性)。

これと同じように、心理的にも、欲求が阻止されて、心の不安や緊張が生じると、できるだけ早く障害をのりこえ、心の安定を回復させようとする心の働きがでてくる。これが適応機制(防衛機制)である。

子供の行動を観察していると、それぞれに適応するための(心の安定を回復するための)努力をしていることに気づく。その努力はどのような種類のものなのかをよく知り、それぞれに合った対処のしかたを心がけるべきであろう。

なお、適応機制の主なものを次にあげる。

- ① 葛藤・欲求不満状況を直接的でなく、代償的に解決しようとする機制(補償・同一視・合理化・昇華など)
- ② 緊張状況から逃避する機制(逃避・退行など)
- ③ 本来の欲求そのものを意識的に認めないようにする機制(抑圧・反動形成など)
- ④ 攻撃的な態度を示すことにより欲求不満を解決しようとする機制(直接的間接的攻撃)

(5) 問題行動の発見

① 問題行動予測のあり方

子供の問題行動を早期に発見し、早期に適切な指導をしていくことは、ひとりひとりの個性を伸ばしていく上からは是非必要なことである。

そこで、問題行動の発見の手がかりが要求さ